

公園気づきプロジェクト ニュース 3号(案)

11/10(土) 穴師公園リニューアル検討ワークショップ

夏に実施した、子どもたちが自ら考えたことを実践するセルフ・バリュー・キャンプ「あなパーでわくわくすることやってみよう！」では、参加者の保護者の方から穴師公園に対するご意見を伺いましたが、今回は、周辺にお住まいの市民の方、有志にお集まりいただき、穴師公園のリニューアルについて検討するワークショップを開催しました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

ワークショップでは、今の環境を活かして、もっと広場的な使い方をしやすくする、穴師公園の特徴でもある森と広場との連続性を持たせる、いろいろな世代の人が利用できるように、災害時には防災的な機能も発揮するように、といった様々な意見をいただきました。今後、いただいた意見をもとに、穴師公園リニューアルプランを作成し、できるところから、少しずつリニューアルを進めてまいりますのでご期待ください。



「公園気づきプロジェクト」は、地域の特性やニーズを踏まえた賑わいの創出や魅力的な特色ある公園づくりに向けて、公園のあり方を市民の皆さまと共に考えるプロジェクトです。市民ワークショップや、穴師公園での社会実験、公園アンケートを実施しています。本プロジェクトの取組みは、「公園気づきプロジェクトニュース」でご報告していきます。

公園アンケート実施報告③

ニュース第2号に引き続き、2018年3月から4月にかけて実施した「郵送アンケート」の結果の一部を、ご紹介させていただきます。アンケートにご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

【質問】あなたが公園にぜひ必要と思う施設は何ですか？

【アンケート集計結果(上位5位)】

「季節感を感じられる樹木や草花」が36.2%で最も多く、次いで「ベンチ」が30.4%でした。3～5位には、様々な世代が利用できる遊具に関する項目が挙がっており、全体として多様なニーズがあることがうかがえました。	1位 季節感を感じられる樹木や草花 (36.2%)
	2位 ベンチ (30.4%)

(有効回答数：404)

第2回公園市民ワークショップ(テーマ:公園でできることを考えよう)

11月10日(土)、泉大津市の公園について考える公園市民ワークショップの第2回目を開催しました。ワークショップでは、公園でどんなことができるか、活用のアイデアを出し合いました。

穴師公園リニューアル検討ワークショップ

穴師公園のリニューアルについて考えるワークショップを、開催しました。

第2回 公園市民ワークショップ

テーマ：公園でできることを考えよう



公園でどんなことができるだろう？ 「公園活用アイデアのお花畑」づくり

身近な公園でどんなことができるだろう？どんなふうに使えたらいいだろう？
第1回で、泉大津にはたくさんの公園があり、用途や年齢にあわせて、公園を使いわけておられるということ、よく使われている公園と使われていない公園があることが、わかってきました。



第2回の今回は、市内の公園を、どんなふうに使えたらいいのか、どんなことができるか、公園の大きさや、活用の分野を意識しながら考えました。考えたアイデアを“花”に見立てて、アイデアの花をたくさん咲かせていただきました。

■「公園活用アイデアのお花畑」づくりで咲いたアイデア

大きな公園

東雲公園や古池公園といった大きな公園に関しては、アイデアの分野が様々でした。具体的な公園に対するアイデアも多く、テストケースを設けてはどうかといったアイデアも見られました。

- 子ども・子育て**
- 何か子どもの創造を引き出すものを
 - 水遊びができる場所
 - ダンスができる場所
 - 小さな子どもでも楽しく遊べる遊具
 - 小さい子の目線で作られた花壇
 - ネコやハトのエサやり禁止

- 健康・福祉**
- ジョギングコース
 - グラウンドの周りなど、周遊できるウォーキングコース
 - あしゆびの遊具（足つぼ遊具等）を敷く
 - ウォーキング教室や、健康教室の開催

- スポーツ・レクリエーション**
- サッカーができる芝生のグラウンド
 - 自転車のコース
 - 運動のデータが取れる公園
 - 家族でピクニックができる広場
 - 助松公園でやっているようなイベント

- 自然**
- 森と通路だけの公園
 - 芝生公園
 - 剪定した樹木などをウッドチップにして園路に敷き詰める
 - 樹木等を剪定し、すっきりさせる
 - 「ひまわり広場」のようにお花いっぱい場所
 - 「きれいやな」と眺められるような花壇
 - 市民が花のお世話をできる花壇

- その他**
- 庁舎に隣接した立地を活かして、東雲公園をテストケースとした防災面などを考慮した取組

小さな公園

小さな公園に関しては、「芝生だけの公園」、「ボール遊び専用の公園」といった機能を限定するアイデアが、多く見られました。

- ピオトープ
- きれいな砂場
- シンボルツリーとベンチだけの公園
- ボール遊び専用の公園

- 高齢者と子どもと一緒に楽しめるイベント

- 全部人工芝で、好きなことをする広場

- 小山だけの公園

- 小さな公園のグループ化
- 使っていない公園を駐車場にし、売上を公園の充実に使う
- 使っていない公園を明るい雰囲気

海辺・川辺の大きな公園

なぎさ公園や大津川緑地といった海辺・川辺の大きな公園に関しては、広さやロケーションを活かしたアイデアが多く見られました。

- 子どもが遊びやすい場所
- 水遊びができる場所

- 歩きやすく明るいウォーキングコースや、ジョギングコース
- ノルディックウォーク

- BBQ用のサイト
- バスケットコート
- スケボー広場
- ロケ地やコンサート会場に活用

- 自然に親しめる場所
- 小松緑道を修繕して、利用しやすく

- 広さを活かす
- 風間でも暗いので、明るくする

話はさらに発展して… 複数の公園や公園以外の施設を関連づけて考えるアイデアも！

複数の公園や施設の関連づけるアイデア、今後の公園の活用を進めていくための情報発信のアイデアなど、単一の公園の活用だけでなく、市の公園全体の活用のアイデアも考えていただきました。

■市の公園全体に関する活用アイデア

- 公園の関連づけをする。
- 年代の変化を考える。
- 公園に関する情報を発信し、ボール遊びなどの多様な利用に対する考えを変えていくことが大事ではないか。
- 何の公園かわかるように、「砂場公園」や「芝生公園」といった名前を公園につけるとよいのではないか。
- 公園と公園以外の施設利用の「すみわけ」をする。
- 周遊できるようにし、コースの設定や、舗装や距離票が整備できるとよい。
- “シンボル”を各所につくる。
- 海があること、海辺の環境を活かす。

■花壇に関するこんな議論も…

- ・花壇がない、あっても利用していない公園がある。
- ・花の世話は、市だけが行うものではないと思う。
- ・管理委員会のように、市から管理をやってくださいと言うような組織をつくると、活動は続かない。
- ・花の世話を生き甲斐とされている、ボランティアもおられる。
- ・花の世話をしようと思う人が1～2人集まれば、そこから活動が広がっていくだろう。